

小ギク切り花の収穫後開花調節による特定日出荷技術

小ギク切り花生産では需要の多い盆、春秋の彼岸、年末年始に合わせて確実に出荷することが経営の安定に結びつく。そこで、切り花をつぼみ期に収穫し、その後、ショ糖などを主成分とした開花液を吸収させながら温度によって開花を調節し、目指す特定日に合わせて出荷する技術を開発した。

内容

1 開花処理に適するつぼみのステージ

収穫は一部の頭花のがく片開裂（膜切れ）以降（写真上）であれば、開花可能である。

2 開花液組成

ショ糖（上白糖）、STS（エチレン作用阻害剤）、抗菌剤、界面活性剤を水道水で希釈する（表）。ショ糖の添加により花色が濃くなり、出荷後、多くの頭花を開花させることができる（写真下）。さらにSTSにより葉の黄変を防止する。その結果、日持ち日数は圃場で開花させて収穫した慣行切り花と同等となる。

3 開花環境（開花室）

照度1000 lx、日長12時間、温度は15～30℃の範囲で正常開花する。品種によって異なるが、膜切れ以降であれば、20～25℃では約10日で開花し、15また30℃ではそれより3～4日開花を遅らせることができる。出荷日に合わせて開花調節する（図）

普及上の注意事項

開花液の1本当たりのコストは約0.5円、本技術を参考に開発された市販品の場合は約1.5円かかる。開花液処理は品種によって薬害で葉が黒変することがあるので、初めての品種では試験実施が必要である。開花処理は作業部屋の一角を仕切り、家庭用の白色蛍光灯やエアコンを設置することで対応できる。

山中 正仁（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2424）

表 開花液組成

成分	濃度 水10リットル 当たり添加量	働き	剤名
ショ糖	300g	開花促進 発色促進	上白糖
STS	1.5mℓ	葉の黄変抑制	K-20C
界面活性剤	1.5mℓ	開花液の吸収促進	主成分(ポリオキシエチレン脂肪酸エーテル)
抗菌剤	2g	開花液の腐敗抑制	8-ヒドロキシキノリン硫酸塩

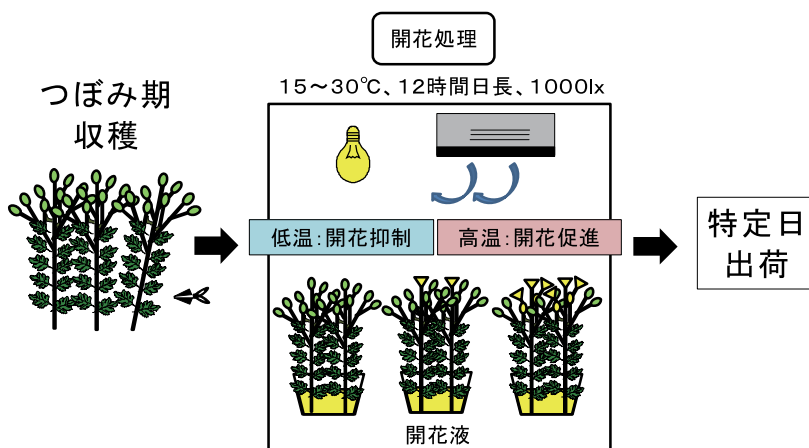


図 収穫後開花調節技術の流れ



写真 開花処理前後の切り花